

「環境問題における地域貢献」

山口大学学長 丸本卓哉

今年、排水処理センターが設立されて23年を迎えました（1983－2006）。この間、広報誌として「環境保全」が発刊され、山口大学における各種の排水処理に関する課題の解決に関係者の教職員が取り組んでこられたことに敬意と感謝を申し上げたいと思います。

「学内から学外（地域）へ一切の汚水を排出しないこと」が基本原則ですが、一方で、教職員や学生の環境保全に対する認識と意識を高めることが大切です。さらに、山口大学の持つ環境保全に関する人材や技術を地域の環境問題の解決や発展に役立てることも地域の基幹総合大学としての役割りであると考えています。現在まで、すでに多くの教職員や学生諸君が、ボランティアとして各種の地域の環境問題解決に取り組んでいる事例が多数報告されており、学長としても嬉しい限りです。

約2年前に、環境問題に関心のある教職員の方々に呼びかけて「山口大学環境ネットワーク」を設立しました。全学より約60名程が登録していただきました。これが契機になって、2004年（平成16年）には、宇部全日空ホテルで日中韓台の研究者による国際環境シンポジウムが開催され、さらに産学公連携による「やまぐち環境ネットワーク」（事務局：山口大学農学部 早川誠而 Tel：083-933-5861）へと発展することになり、年1回の環境シンポジウムと2年毎の日中韓国際シンポジウムを開催することとしています。このように、地域も山口から東アジアへと広がりを見せていますが、山口大学は歴史的にも東アジアとの交流が深く、環境問題の解決に十分貢献できます。また、これらの活動を通して教育・研究費の確保も可能になると期待されます。環境問題は汚染だけでなく、人類の生存に関わる全ての課題に関係していますので、あらゆる分野の研究者が参画可能です。

国内外の各種の環境問題に積極的に参加し、地域社会の発展に貢献することで、基幹総合大学としての役割を少しでも果たしたいものだと思っています。多くの教職員のご協力やご支援が得られることを心より願っています。